

製品名: IκB-ε (リン酸化 Ser22) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04895**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	NFKBIE
別名	NFKBIE; IKBE; NF-kappa-B inhibitor epsilon; NF-kappa-BIE; I-kappa-B-epsilon; IκB-E; IκB-epsilon; IκappaBepsilon
遺伝子 ID	4794.0
SwissProt ID	O00221
免疫原	抗血清は、Ser22 のリン酸化部位周辺のヒト IκB-ε 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

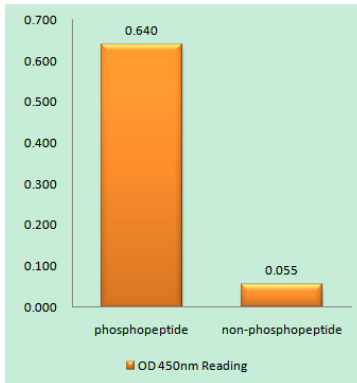
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は NF- κ B の構成要素と結合し、複合体を細胞質内に捕捉することで、核内の遺伝子活性化を阻害する。コードされるタンパク質がリン酸化されると、ユビキチン経路によって破壊され、NF- κ B が核に移行できるように活性化される。[RefSeq 提供、2011 年 9 月],機能: NF- κ B と複合体を形成し、細胞質内に捕捉することで NF- κ B を阻害する。NF- κ B p50-p65 および p50-c-Rel 複合体の DNA 結合を阻害する。、PTM: セリンリン酸化;プロテアソーム依存性分解を受ける。、類似性: NF- κ B 阻害因子ファミリーに属する。、類似性: 6 つの ANK リピートを含む。、サブユニット: RELA、REL、NFKB1 核因子 NF- κ B p50 サブユニット、および NFKB2 核因子 NF- κ B p52 サブユニットと相互作用する。、組織特異性: 脾臓、精巣、肺に多く発現し、次いで腎臓、膵臓、心臓、胎盤、脳に多く発現する。また、顆粒球およびマクロファージにも発現する。、

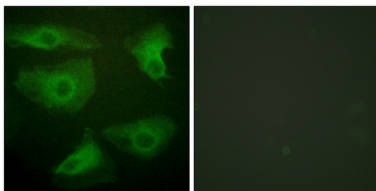
研究分野

T 細胞受容体;B 細胞抗原;神経栄養因子;アディポサイトカイン;

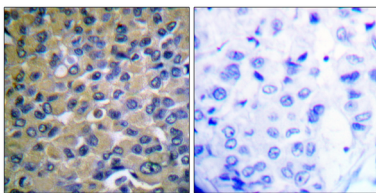
画像データ



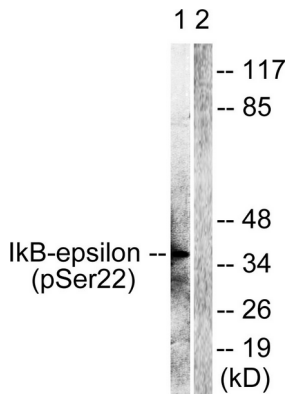
IkappaB-epsilon (リン酸化 Ser22) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



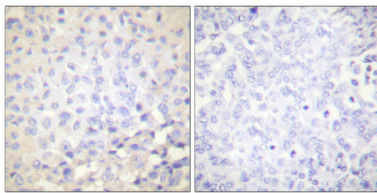
IkappaB-epsilon (リン酸化 Ser22) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



IkappaB- ϵ (リン酸化 Ser22) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF- α 20 ng/ml 30 μ L 処理した Jurkat 細胞ライセートの IkappaB-epsilon (リン酸化 Ser22) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。